

## 選 鋳 製 錬 研 究 所 前 併 任 教 授 的 場 幸 雄 博 士



博士は大正13年九州帝国大学工学部冶金学科を御卒業後直ちに当時新設された本学工学部金属工学科に講師として御赴任になり、ついで昭和2年助教授、昭和11年教授に任ぜられ、工学部金属工学第一講座を担当され、38年に亘り学生の教育、鉄冶金学の研究にあたられましたが、昭和37年3月停年制により御退官、直ちに本学名誉教授の称号を贈られました。

その間、昭和16年選鋳製錬研究所が設置されるや、兼任所員、所長事務取扱、併任教授として当所の発展、拡充に尽力され今日の当所発展に多大の貢献をなされたのであります。また、昭和34年よりは工学部長として理工科学生増員に対する時局の要請に応じて工学部大拡充の端を開かれた功績は特筆すべきものがあります。

博士の公平無私にして温厚な御人格は接するものに深い感化を与え今日博士の門下生より幾多の英才が輩出しております。また、御専門の鉄冶金学に関する研究は鉄鋼製錬の物理化学的研究、鉄鋳石の選

元に関する研究、鉄鋼のガス分析に関する研究、鉄鋳石の焼結に関する研究など広範囲に及んでおりますが、特に鉄鋼製錬の物理化学的研究においては博士は我国のこの方面の研究の開拓者であり、また常に指導者として今日の盛況をみるに至つたのであります。

学外活動としては、日本学術振興会、製鋼第19委員会委員、同委員会製鋼反応協議会主査、日本学術振興会製鉄第54委員会委員長、鉄鋼技術共同研究会製鉄部会委員、製鋼部会委員、金属材料研究所科学官として我国鉄鋼製錬に関する研究の指導、技術の改善に大きな功績を残し、又日本鉄鋼協会副会長、日本金属学会会長、日本学術会議会員として関係学会の運営と学術振興に尽力されたのであります。

博士は御退官後富士製鉄株式会社副社長として同社の研究ならびに技術開発部門を担当されておりますが、益々御健康で我国鉄鋼業の発展のため活躍されることを念願するものであります。